

## ■知的支援校における実践事例

# マルチメディアDAISY図書を音読などの指導に活用できる可能性を探る

京都府立南山城支援学校  
藤澤 和子



### 研究にあたって

京都府立南山城支援学校には、知的障害、自閉症、肢体不自由の子どもたちが在籍しています。今回の研究では、わいわい文庫（マルチメディアDAISY図書）を使い、読書の楽しみの広がり、音読などの指導に活用できる可能性を探ることを目的にしました。

まず、2012年（平成24年）8月末日に、校内図書部の研修会で、参加した約30名の先生方を対象にマルチメディアDAISY図書の紹介と、マルチメディアDAISY図書の閲覧ソフトであるAMISを使った見方、また閲覧ソフトが不要なわいわい文庫の見方を説明し、実際に経験してもらいました。

マルチメディアDAISY図書の使い方の説明は、図書室のパソコンにつけました。また、iPadの保管場所を放送

室にして、使用できることを全校に知らせました。

必要に応じて、閲覧ソフトAMISを自分のパソコンにインストールしたい先生の手助けをしました。

### 活用実態・様子と効果

4つのクラスで活用されました。それを、クラスごとに報告します。

#### ①中学部1年生のクラス

（自閉症障害4名、発達年齢3～6歳）

- 場所：教室
- どんな時：国語の授業
- 見せたマルチメディアDAISY図書：『へんしんマラソン』（社会福祉法人日本ライトハウス・製作）
- 見せたときの子どもたちの様子

マルチメディアDAISY図書を大型テレビに映しました。画面が大きくて音

声も聞きやすいため、子どもたちは集中して視聴できました。

- 指導者が感じた効果

音声が単なる読み聞かせではなく、何人かの声で演じ分けられているため、楽しさが増すように思います。絵本を教材にするときの導入によかったと思います。

- 今後への期待

画面がもう一まわり大きくなれば、なおよいと思います。

## ②小学部1年生・2年生のクラス

(小学部1年2名、小学部2年2名、自閉症、発達年齢2～3歳半)

- 場所：教室

- どんな時：クラス遊びの時間

- 見せたマルチメディアDAISY図書：

『へんしんマラソン』(社会福祉法人日本ライトハウス・製作)

『ぞうくんのおおかぜさんぽ』(社会福祉法人日本ライトハウス・製作)

- 見せたときの子どもたちの様子

大型テレビで見たので、はじめは集中してよく見ていましたが、途中であきてしまった子どももいました。2年生の2名は、よく見ていました。

- 指導者が感じた効果

パソコンやiPadにさわりがるので、見せにくかったです。

- 今後への期待

発達年齢2～3歳を対象とした、

はっきりとした絵の簡単な絵本がマルチメディアDAISY図書になればうれしいと思います。

## ③中学部のクラス

(中学部1名、重度重複、発達年齢1歳前)

- 場所：教室

- どんな時：昼休み

(教師1名に児童1名)

- 見せたマルチメディアDAISY図書：

『おおきなかぶ』(iPad)

- 見せたときの子どもの様子

目をぱっちりさせて、じーっとよく見ていました。表情もよかったです。文字理解はできないが、映像をよく見ていました。

- 指導者が感じた効果

読み進めてくれるので、こちらもいっしょに話しかけながら、見ることができました。

- 今後への期待

見るだけではなく、アプリのようにさわったら何か反応があったりすると面白いと思います。

## ④重複障害のある子どもがいる小学部のクラス

(小学部6年1名、小学部5年2名、4年1名、3年1名。知的障害3名、知的と肢体の重複1名、聴覚と知的の重複1名。発達年齢3～6歳)

- 場所：教室
- どんな時：国語の授業、クラス遊び、個人学習（教師1名に児童2名）
- 見せたマルチメディアDAISY図書：
  - 『あいうえおにぎり』
  - 『やおやでおかいもの』
  - 『おおきなかぶ』
  - 『しんかんせん』
  - 『はたらくくるま』
  - 『かわいいおやこ』
  - 『わにさんどきっ はいしゃさんどきっ』
- 見せたときの子どもたちの様子や指導者が感じた効果

1) 週に1回『あいうえおにぎり』を大型テレビに映して見ました。間隔を長くとり、文字のハイライトを意識させながら、全員で復唱しました。何回も復唱するうちに、覚えて言える子どももいました。文字を読む力がついたというはっきりした成果があったとはいえませんが、みんなで声をあわせて復唱する楽しさは感じたようです。

2) 『やおやでおかいもの』を買い物ごっこを授業でした時の導入に使いました。お客と店員のやりとりのことばが、簡単で短く作られてあり、人物の写真が使われてリアルだったので、子どもたちが、興味をもって、ごっこで使うことばを学習できたので、よかったと思います。

3) 『おおきなかぶ』『しんかんせん』

『はたらくくるま』『かわいいおやこ』は、次は何かとページが変わることを楽しみにしながら、集中して見たり聞いたりすることができました。20分ぐらいは、集中していました。物語では『おおきなかぶ』、物語以外では『しんかんせん』に、とくに人気がありました。

4) 音読の指導に、『わにさんどきっ はいしゃさんどきっ』を使いました。二人の子どもが、わにと歯医者に分かれて、間をとって（設定を変更して）、読み上げの後に、復唱して読みました。ひろい読み段階の子どもなので、単語をひとかたまりとして意識させることに役だったと思います。

#### ▪ 今後への期待

楽しむためと音読指導の目的での使用効果を今後も検証したいと思いました。iPadのおかげで、見たい時に見られるようになったので、子どもたちにも気軽に見せることができました。作品が増えることと、紙芝居風の画面にある文字を消した作品を希望します。

#### 来年度に向けて

マルチメディアDAISY図書は、大型テレビで画面を大きくして、クラスで楽しむ活用を多くおこないました。しかし、活用したクラスが4つにとどま

り、十分普及したとはいえない現状です。

その理由は、マルチメディアDAISY図書のことをまだ知らない先生がいるであろうこと、見方がわからない先生、見るための準備（大型テレビの設置や接続、iPadの使用）がわからない（おっくうな）先生などがいることではないかと思えます。

マルチメディアDAISY図書を見たクラスの先生の報告から、子どもたちに好評であることがはっきりわかるので、マルチメディアDAISY図書の良さを伝

えつつ、使用方法の説明などを定期的におこなう取り組みが必要ではないかと思えます。

また、発達年齢2～3歳児レベルの子どもが楽しめる作品をもっと増やしていただくことも、知的障害の子どもがいる学校で普及させるために必要だと思えます。読み方は、複数の人が役割を決めて読む紙芝居風で、ハイライトの付いた作品、あるいは紙芝居風のものでは、絵本の文字を消した作品を望みます。